

オーガニック食材の普及による 市民の健康増進

～子どもの笑顔と食の安全～



出典 千葉県いすみ市夷隅小学校



出典 千葉県いすみ市

まめな食つむぎ隊

子供たちに安心安全な食べ物を食べさせてあげたいという思いで集まった有志の団体です。メンバーは7人(男性2人、女性5人)です。昨年10月23日に開催した『食の安全を守る人々』の上映会をきっかけに活動がスタートしました。これまでの活動内容は食に関する上映会の開催やオーガニック給食フォーラムの参加、給食センターの見学、オーガニックイベントへ足を運び農家さんの話を聞いたりしています。集まる場所は特に決まっておらずZOOMを使って話し合いをしたり、市役所で市議さんにオーガニック宣言をしてきました。

発表の動機

私たちは食べたもので身体ができています。世界では食や農業を見直す流れになっている中で、日本ではそれに逆行するかのようになり、農薬の緩和、遺伝子組み換え作物、ゲノム編集、食品添加物、種子法廃止や種苗法の改定など問題がたくさんあります。

日本の食料自給率は38%と下がる一方です。政府も「みどりの食料システム法」を施行し2050年までに有機農地を25%に拡大することを掲げました。そしてこれを叶えるためには、給食をオーガニックに変えることが1番と考え全国各地で給食をオーガニックにしようと動き出しています。給食をオーガニックにすることで、黒部市の農業を支え食料自給率を上げ、環境を守り私たち市民の健康を育み雇用や経済までも豊かに変えることができる最善の方法だと確信しているからです。

これを一人でも多くの人に知ってもらえたら今よりももっと黒部市民が健康で住みやすく元気な町になると思い参加させて頂きました。

オーガニック給食とは

オーガニックを日本語にすると「有機」という意味になります。

農薬や化学肥料に頼らず栽培された有機農産物を学校給食に取り入れることで旬な野菜や地産地消にこだわり、子どもに安心安全な食を提
供できることと、衰退していく地域に対して復興、再生のカギを握る
取り組みのことをいいます。

有機という言葉が誕生したのは「複合汚染」がメディアに掲載され、
日本中が農薬や合成保存料や合成洗剤の危険性に気がつくようになった
てからです。効率優先、利潤追求という社会の流れにより、食と農と
環境の悪化は後回しにされてきましたが、SDGsという言葉が流行り始
めこのままの経済システムのやり方、営みでは持続可能な社会が実現
できず、次世代の子ども世代の命を守ることができなくなることが明
らかになってきました。給食をオーガニックにすることは、保護者、
生産者、自治体、教育関係者、地方議員、国会議員すべての地域の人
が協力して、日本の農と食と生きる環境を守り、持続可能な社会をつ
くる最善の方法だと周知されています。

オーガニック給食マップ

学校給食で有機食品を
使用しているのは

全国で **123** 市町村

※令和2年度調査



ここからの資料はオーガニック給食フォーラム資料集からの引用になります

富山県が属している中部地方でもオーガニック給食
を実現しています

新潟県佐渡市 無農薬・無化学肥料のコシヒカリ
石川県羽咋市 自然栽培の食材を使った給食の日が
ある

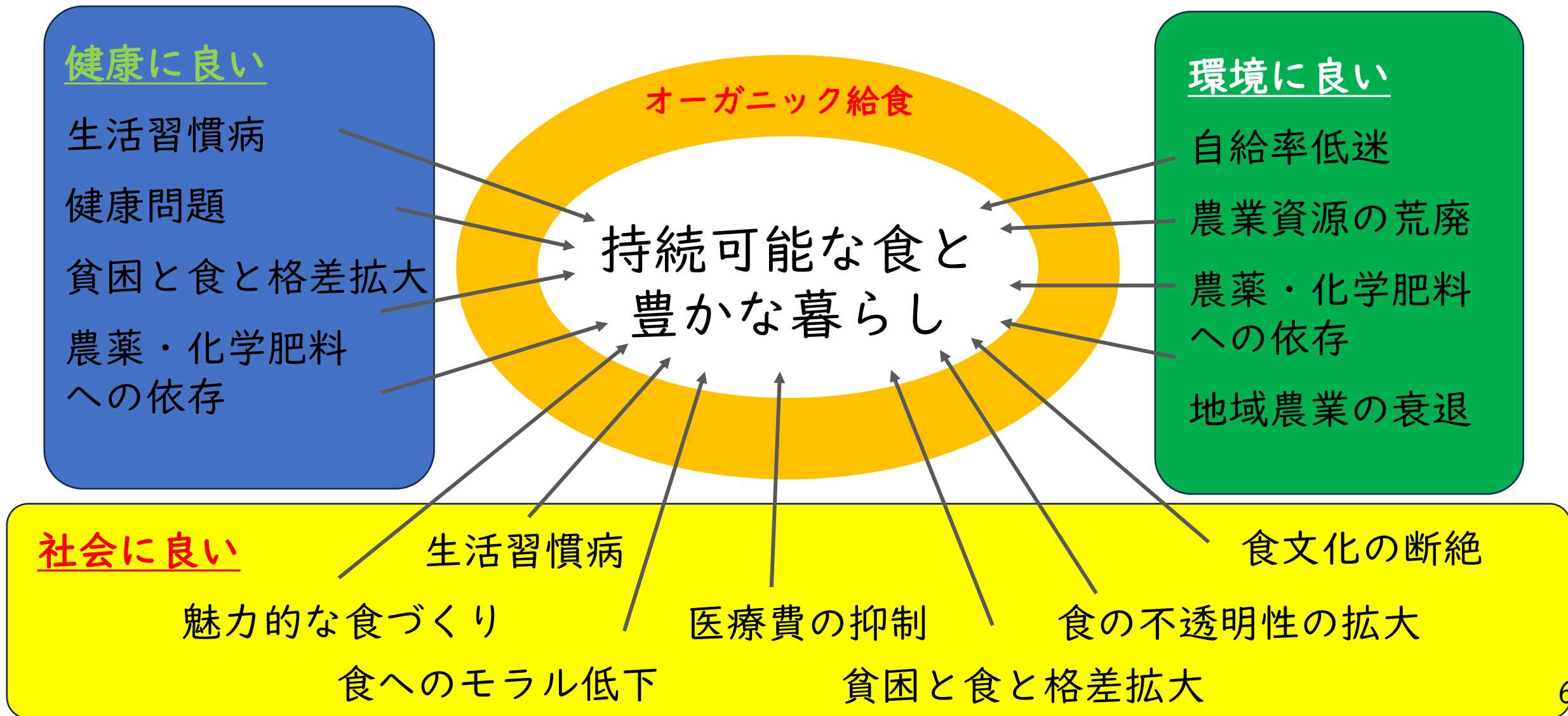
山梨県北杜市 一部有機野菜を提供
長野県松川町 有機米、じゃがいも、人参、ねぎ、
玉ねぎの5品目を栽培、使用

岐阜県白川町 有機米、有機野菜、あんしん豚
静岡県富士市 年2回1週間のオーガニック給食週
間を実施

愛知県東郷町 保育園、学校給食に公費負担で有
機JAS認定の小松菜、にんじん

名古屋市 保護者の働きかけで有機バナナ使用
あま市 保護者の働きかけで有機人参使用
稲沢市 保護者の働きかけで有機バナナ使用
犬山市 有機米が2日間使用された

オーガニック給食がなぜ必要なのか



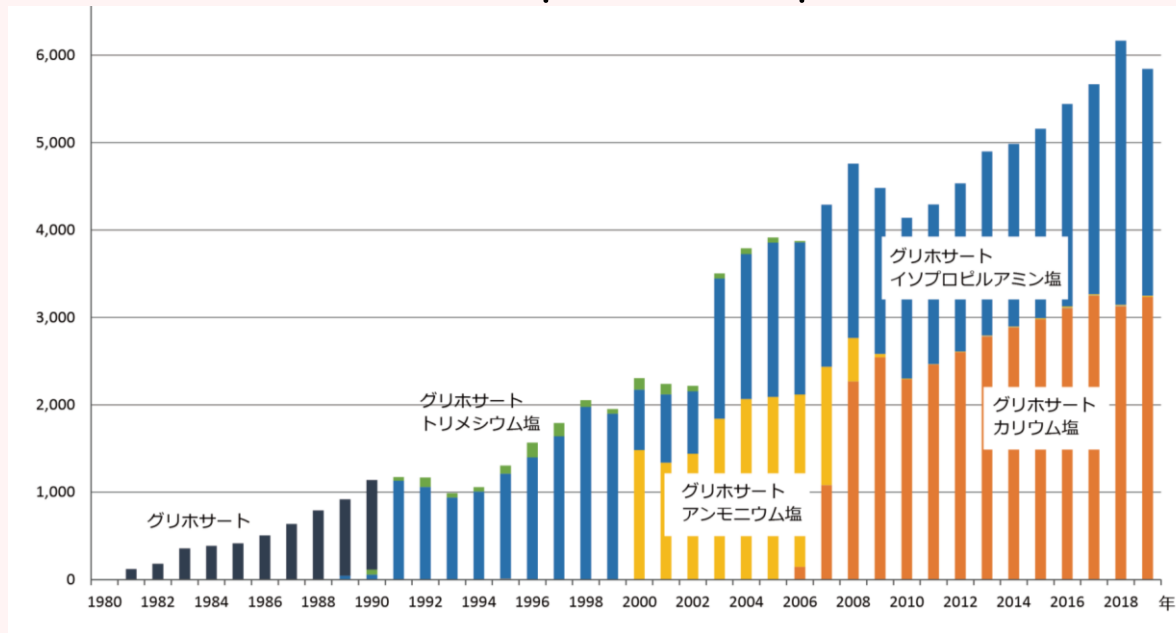
農薬を使う理由

- ・ 安定した収穫量を確保するため
- ・ 品質や見た目の良いものを栽培するため
- ・ 労働力を軽減するため
- ・ 国の基準を守れば安全



考える必要がある農薬の使用状況

グリホサート出荷量(除草剤)
1981年～2018年



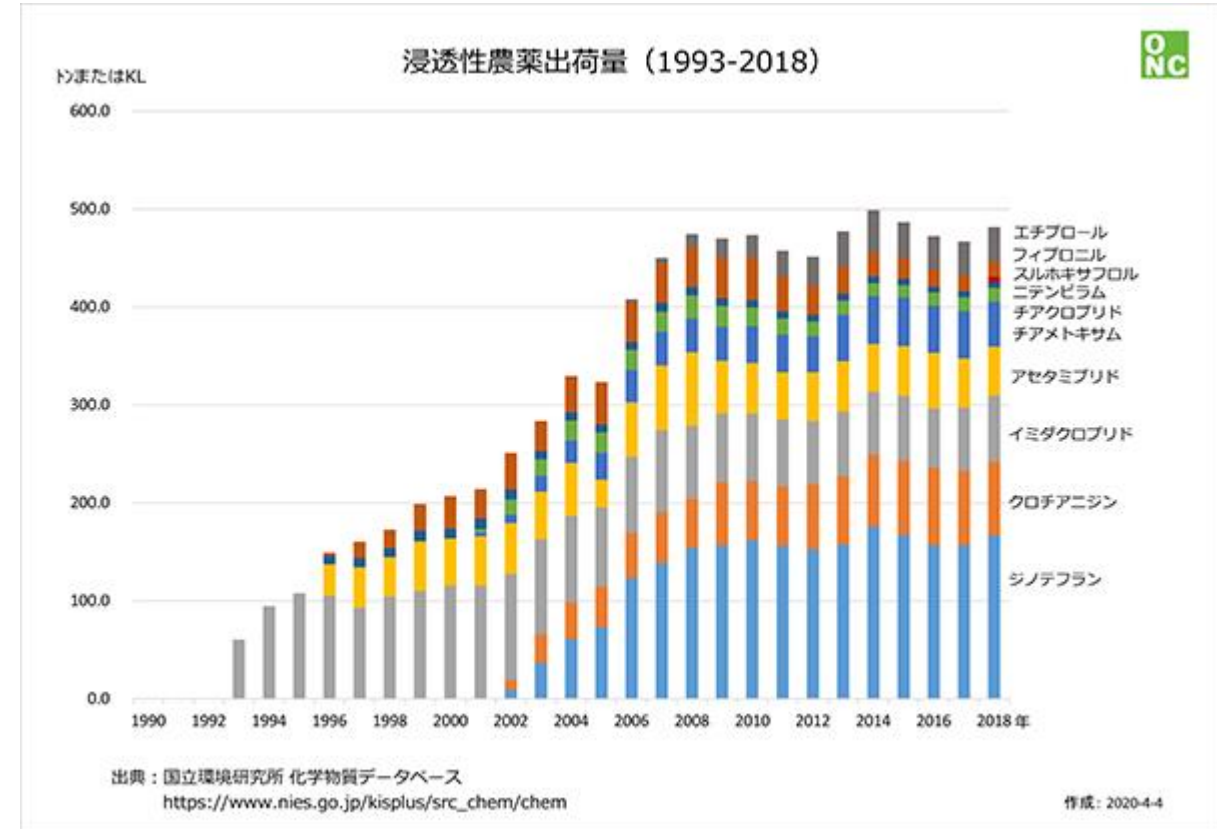
出典:国立環境研究所データベース

・農薬の使用や遺伝子組み換え作物の輸入及び農薬の残留量基準緩和により健康に悪影響を及ぼしている

- ・グリホサートの規制状況
- ・メキシコ 2024年までに段階的に規制
- ・カナダ 州によって規制
- ・ベトナム 2019年新規輸入禁止
- ・ドイツ 2023年までに全面禁止

悪い虫を除去できる便利なネオニコチノイド系農薬とは？

- ミツバチの大量虐殺の一因となり環境負荷の原因になっている
- 神経伝達に害を与え特に脳神経障害の多動性障害 (ADHD)が増加している
- 妊婦が摂取すると胎児が障害を発症する可能性がある
- 海外では規制や禁止されている



農薬のついたものを食べると・・・

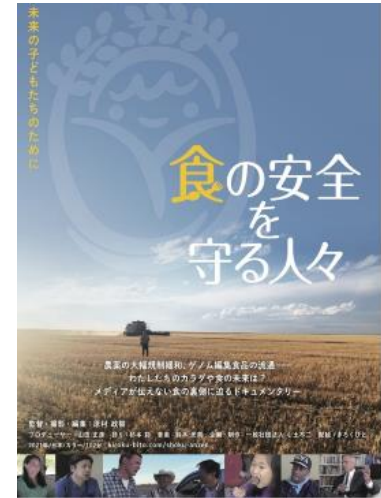
・2016年の論文では、国内の3歳児223人の尿を調べたところ、8割でネオニコチノイドが検出された。また有機リン、ピレスロイド系の農薬の代謝物が全員から検出された。

・2019年に、46人の子どもの尿を検査したところ、全員の尿からネオニコチノイドが検出された。

・2021年に農民連食品分析センターが検査を始めたところ、成人を含むすべての検体からネオニコチノイドが検出された。



出典:映画「食の安全を守る人々」



- ・ネオニコチノイド系農薬の空中散布の前(左)と後(右)に描いた子どもたちの顔の絵
- ・殺虫剤の空中散布を行っている地域では散布後に物忘れや体調不良を訴える人もいる

世界でも取り上げられる農薬の懸念

WHO/UNEP(2012年)

農薬などが子どもの健康な脳の発達に悪影響を及ぼすと発表

米国小児科学会(2012年)

農薬は小児がんのリスクを上げ、脳の発達に悪影響を及ぼすと勧告

国際婦人科連合(2015年)

農薬などによって、人の生殖、出産異常が増え、子どもの健康被害や発達障害を増やしてしまっていると勧告

欧州食品安全機関(2017年)

残留農薬などは子どもの脳や免疫系などの発達に悪影響を及ぼすと提言

国際婦人科連合(2019年)

グリホサートの化学物質が胎児に蓄積し、長期的な後遺症を引き起こす可能性があるとの勧告

農薬は有機食品でデトックスできる！

有機食材に変えると、
健康を取り戻す根拠となる実験

有機食材続ければ 体内の農薬大幅減 福島のNPO調査

農薬や化学肥料を使わない「有機農法」の食材を適量と、実際に体内の農薬を大幅に減らせることが、福島県のNPO法人の調査で明らかになった。通常の市販の食材（慣行食材）を食べ続けた集団と比べ、有機食材を5日間とった人は体内の農薬は約半分、1カ月間続けた人は同一期間未満の濃度だった。安全性をデータで示した貴重な成果と専門家は評価している。

NPO法人「福島県有機農業ネットワーク」が、北海道大学大学院医学研究科の船中良徳准教授（毒理学）の協力を受けて調べた。生産農家と消費者の連携を進める同ネットワークが協力を募り、既に含まれるネオニコチノイド系の殺虫剤6種類と、それらが体内で分解されてできる物質1種類の濃度を測定した。

調査結果によると、約30検体を分析したところ、従来通り近所のスーパーで購入した食材を食べ続けた48人は、尿中の7物質の濃度が合計で平均5.0ppb（ppbは10億分の1）。一方、お茶も含めて同ネットワークが提供する有機食材のみを5日間とり続けた28人は同2.3ppb（46%）だった。

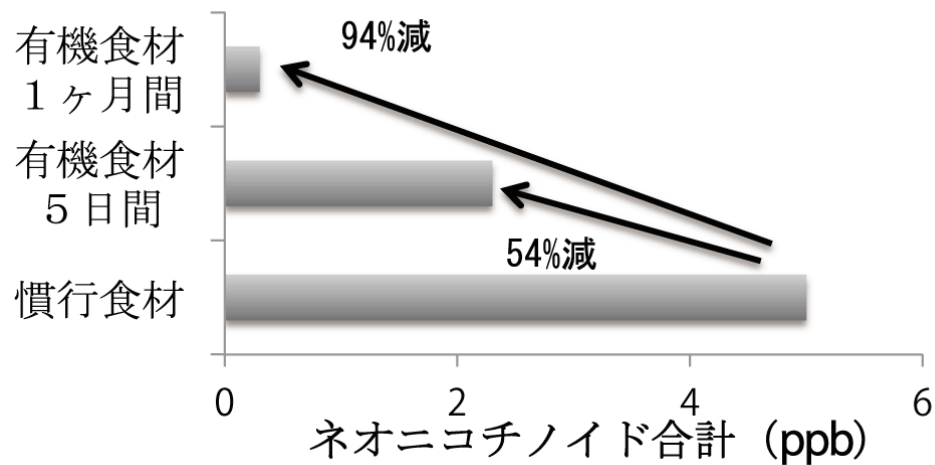
また、有機食材のみ1カ月間食べ続けた1世帯4人は同0.3ppb（6%）。有機農法を手がけ収穫物を自家でも食べている5世帯の12人も同0.5ppb（10%）と、一般の人の1割程度という低い数値だった。

ネオニコチノイド系殺虫剤は水によく溶け、農家が使いやすい薬剤として1990年代から使用量が増えた。近年は国内で約4000トンの出荷される一方、食品への残留や環境への影響が問題視されている。船中准教授の分析結果によれば、市販のペットボトルのお茶からもほぼ全数で検出され、濃度は数十ppbになるという。

調査を担当した同ネットワーク理事の長谷川裕さんは「食べ物を通じて体に入ってくる農薬を減らす方法とその効果を、具体的にデータで提示できた。有機農法への理解と支援が高まる契機になれば」と話す。

（編集委員・水井博二）

数値化前例のない研究
農薬などの毒性に詳しい
神戸大学大学院の星信彦教授（動物分子形態学）の話
野菜の選び方を変えるだけで体内の農薬が劇的に減ることを実際の測定値で示した。ほとんど前例がない
価値の高い研究成果だと思
う。有機農法は手間がかか
る一方で「環境に優しい」と
いった数値化しにくい評
価が主だっただけに、具
体的に効果が示される意味
は大きく、生産農家の励み
になるのではないか。



NPO法人福島県有機農業ネットワークの調査
(2017年朝日新聞掲載)

有機給食を食べると免疫力が落ちない



1日1食ミネラルとフィットケミカルたっぷりのオーガニック給食に変えるだけで体温が上がり免疫力が強くなる。

欠席者数(仁尾小学校全体)

年	(%) のべ	実数	期間	1日
	(人)	(人)	(日)	(人)
23年	24	764(251)	190	8.1
24年	68	172(51)	57	4.1
25年	82	66(19)	21	2.7

出典: <https://www.ecopure.info/rensai/genki/genki201.html>

オーガニック給食を食べると健康に育つ

【オーガニック給食による変化】

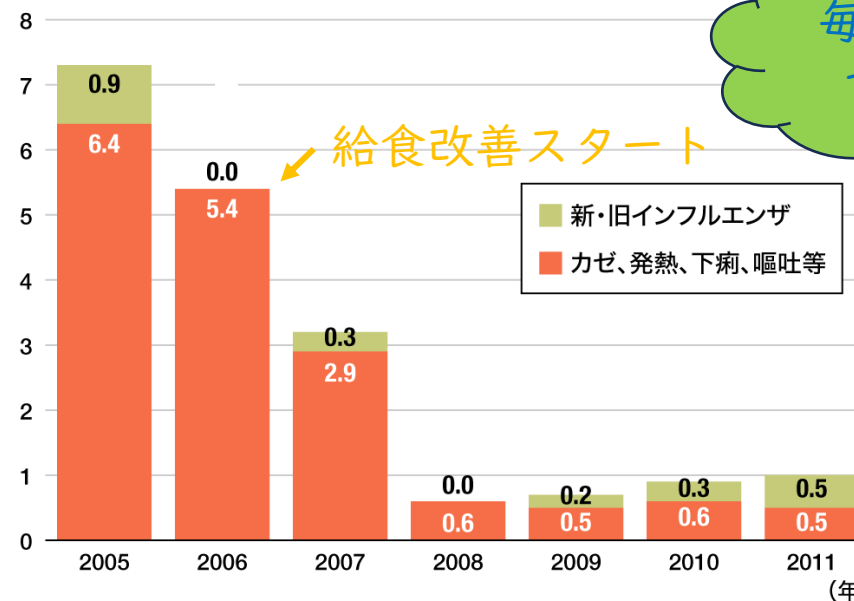
アトピーやアレルギーの改善、
欠席日数の減少、落ち着いて
授業を受けられる生徒が増えたなど



出典：日本と世界の「オーガニック給食」の現状

長崎県マミー保育園の給食が
オーガニック和食に変わると
病欠日数が減った！

マミー保育園 園児1日当たり年間病欠日数
(3~5歳児)



毎日食べ残し
ゼロが続く

オーガニック給食にすると、いい事が起きた！

【子どもたちには】

- ・ 元気になり、集中して授業が受けられるようになった(長野県)
- ・ 発達障害の子どもが穏やかになった(新潟県)
- ・ 年間の欠席日数が1/10になった(長崎県)
- ・ 36.5度以上の子どもの割合が増えた(香川県)
- ・ 給食の完食率が上がり、残菜が減った(千葉県)
- ・ 良い食べ物を選ぶ力が備わった(愛媛県)
- ・ アトピーが改善したりインフルエンザの欠席が減った(福岡県)

有機給食を実現している千葉県いすみ市に起きた良いこと

【自治体には】

- ・この町に住みたいという方や、この町で子育てしたいという移住者が増えた
- ・市民が喜んで、行政への信頼が厚くなった
- ・有機農業面積が増え、生き物も増え、自然環境が良くなった
- ・有機農業に移行する方がでてきた
- ・有機農業を始める新規就農者が増えた
- ・給食の有機米が「いすみっこ」というブランド米になった

有機農業技術の紹介

吉田俊道(菌ちゃんふぁーむ)

雑草だけで土づくり、生ごみを漬物のように発酵させて土づくりし、病気にも虫にも強いファイトケミカルたっぷりの野菜を育てている。オーガニック和食給食の保育園を支えている。100%有機米給食のいすみ市の野菜栽培の指導にもあたっている。

小祝政明

(株)ジャパンバイオフーム代表。毎年、栄養価コンテストを主催。経験や勘に頼るだけでなく客観的なデータを駆使した有機農業の実際を指導している。有機米給食100%を実現したいすみ市の野菜栽培を指導している。著書に「有機栽培の基礎と実際」「小祝政明の実践講座」全4巻など多数。



自然農法センター(公財自然農法国際研究開発センター)

70年以上の歴史を持つ無農薬栽培の研究、種子の維持管理販売、自然農法の研修、普及など行っている。最近、長野県松川村、池田町など、有機給食に使う有機米や野菜の栽培指導にあたっている。

NPO法人民間稲作研究所

農薬を使わなくても草取りに苦勞しない稲作技術を研究、米・麦・大豆の2年3作で日本の主要農作物の自給率を上げること、子どもたちを有機給食で健康に育てることに力を入れている。いすみ市や木更津市の有機給食を支えた有機稲作技術の指導者でもある。

木村式自然栽培

奇跡のリンゴの木村秋則さんの稲作版。石川県羽咋市はじめ新潟県佐渡市他全国に広がっている。羽咋市の有機給食を支えている技術でもある。

オーガニックビレッジ宣言に手を上げる

市町村主導での取組を推進

有機農業の生産から消費まで一貫した取組
 農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ取組
 物流の効率化や販路拡大等の取組と一体的に支援

生産

- ・有機農業にまとまって取り組む地域の形成
(地域説明会、団地化、技術指導等)
- ・堆肥等有機資材の供給体制の整備
- ・集出荷体制の構築

- ・産消提携
- ・産地見学会・体験会
- ・ECサイトの構築
- ・直売所の充実

**2025年までに100市町村で
 オーガニックビレッジを宣言**

(2030年までに全国の1割以上の
 市町村(約200)で宣言)

- ・産地リレー体制の構築
- ・ビジネスマッチング

加工・流通

- ・有機農産物を原料とした
地場での加工品の製造
- ・地域の外食や旅館などで
の利用

消費

- ・学校給食での利用
- ・マルシェなど域内流通での
地産地消の展開
- ・地域外都市との提携

- ・量販店での
有機コーナーの設置

第1段階

構想→試行→**実施計画**

※定額補助(上限付)

第2段階

着手→体制づくり→**体制構築**

※定額補助(上限付)

★民間資金の活用を行う場合は支援期間を延長

第3段階以降

継続的な実施へ

※自立へ

オーガニックビレッジを中心に、有機農業の取組を全国で面的に展開

国も有機農業を推進する施策を
 立ており、2050年までに有機
 農業の取り組み面積を25%、100
 万ヘクタールまで拡大しようと
 している。

有機給食は有機農作物の出口と
 して位置づけられている

令和3年から始まる農水省のこの
 政策は、有機給食を進めたいと
 思っている市町村にとって、役
 場、JA、学校関係者などの意見
 を一つにまとめるチャンスにな
 る。

国が取り組む みどりの食料システム戦略

出典：農林水産省

- ・ 低リスク農薬への転換
- ・ 化学農薬の使用量を50%低減
- ・ 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- ・ 有機農業の取り組み面積の割合を25%拡大
- ・ 持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現

みどりの食料システム戦略（概要）
 ~食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現~
 Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月 農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
 2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
 2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
 2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
 補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築
 ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
 ・国産品の評価向上による輸出拡大
 ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大
 ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
 ・地域資源を活かした地域経済循環
 ・多様な人々が共生する地域社会

環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承
 ・環境と調和した食料・農林水産業
 ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
 ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

富山県内での動き

- ・南砺市 2020年から3、4回の給食に有機米や、有機野菜を取り入れている。
1週間かけて各小中学校15校の給食1日分の自然栽培、有機給食が提供
- ・舟橋村 2021年に有機米、有機野菜を使用した給食を5回実施(エコ給食の日と呼んでいる)
- ・氷見市 今年の7月19日灘浦小学校で氷見市初の自然栽培オーガニック給食が実現
- ・滑川市 教育委員会&学務課から委託業者として子供たちと一緒にお米を作る「田んぼの楽校」を実施。既に1日有機米提供が実現しているが、これを2日にする予定。

『オーガニック給食を全国に実現する議員連盟』

今年の6月15日に設立されました。役員には自民、立憲、公明、維新、国民、共産、れいわの政党が参加しました。来年の通常国会までには、学校給食法の改正案を検討して、無償かつオーガニック給食を実現したいと動いています。

どうやったらオーガニック給食が広がるの？

地産地消で目指せ
自給率100%

オーガニック産地育
成事業で新規参入者
を呼べないかな？

有機農業教えてくれ
る先生呼べないかな？

市民の健康の為のイ
ベントできないかな

子どもたちに虫と
農薬、命の大事さの
なあぜなあぜやりた
いな

もっと生産者と消費
者の距離縮めたいな

オーガニック食材の普及による
市民の健康増進
～子どもの笑顔と食の安全～

テーマ①

市民の健康の意識を高めるためにできたらいいな・
やりたいなと思うこと

テーマ②

オーガニック食材を広めるためにやりたいな・やる
べきこと

テーマ①

市民の健康の意識を高めるために
できたらいいな・やりたいなと思うこと

健康のための4原則

食事・運動・睡眠・心を整える

- ・食を見直す
- ・軽い運動
- ・免疫力を上げる
- ・安眠の方法
- ・4原則の質を上げる
- ・ストレス発散

健康活動が地域の健康度を高める

- ・ 有機食材で地産地消をしてマルシェを開催
- ・ 自分の食生活を自分で管理できるように、正しい知識と判断力を身に着ける機会をつくる
- ・ リスクを正しく理解して、健康を意識する

テーマ②

オーガニック食材を広めるために
やりたいな・やるべきこと

食育で人と地域をつなぐ

- ・ 農作業を通し大人も子どもも食の安全について考える機会の場をつくり食育を推進したい
- ・ 有機農業を推進するために買い物で投票する
- ・ 食への感謝の気持ちを育てる
- ・ 有機給食や、有機食材の素晴らしさを伝えるための上映会や学習会を企画する

オーガニック食材を給食に

- ・水質汚染・土壌汚染・大気汚染から環境を守る
- ・健全な食物連鎖と、人間の健康を守る
- ・農家を支えられる
- ・食料自給率が上がる
- ・経済が豊かになる

黒部市民がわくわく・イキイキ
より良いものになるように
みなさんの新しいアイデアを
よろしくお願いいたします。

まめな食つむぎ隊は随時メンバー募集中です♡

連絡先

吉原 麻依 090-5173-7805